

イチイ

実はムクドリ、ツグミ、ヤマガラ等様々な野鳥が食べにくる

イチイ科
イチイ属
樹高
10～15m

四季の観察ポイント

春

雌雄異株



雌花の多くは2年生枝につく

夏

葉はとがるが触っても痛くない



葉は主軸上ではらせん状につくが側枝では捻じれて左右に互生

秋

種子は赤い仮種皮に包まれる

冬



種子は5mm位有毒



樹皮は赤褐色で薄く浅い裂け目が目立つ

イチイは別名オノコとも呼ばれ、北海道では庭木や生垣などでも親しまれている針葉樹です。
天然ではやや暗い森林の中で多く見られ、成長は遅いです。特殊な条件下で純林を作ることもあります。
実の赤い皮の部分(仮樹皮)は甘く、食べる事ができますが、この部分以外は有毒アルカロイドのタキシンが含まれているので要注意です。



実を食べるエゾリス

リン子の絵日記

オノコの実
甘くておいしい〜！

イチイの名は昔の高官(えらい人が持つ)笏をイチイの材で作り、その官位(役職名)にちなんで「二位」としたとも言われている。

オノコは北海道の庭によく植えられているね。全国的にはイチイと呼ぶよ。

イチイ

キズはないかな？

注) 種に毒があります

みだけじゃなく、幹の中まで赤くて、昔はイチイを使って、布を染めたりもしていたんだ。

蘇芳色(赤紫色)に染まるから、ヤマスオウの別名もあるよ。

実はそのまま食べても果実酒にしてもおいしい。

ただし！
実以外の種や葉には毒があるから、絶対に種を噛んだらいけないよ！

注) 本当に強い毒です！

注) 種に毒があります

アイヌ民族とイチイ
イチイはアイヌ語で「クネー」(弓になる木)と呼ばれ、この木で作った太い弓は雨や雪にさらしても狂わないとされました。
また、心材から褐色の染料を採り、アツトウシを染めました。
実は食用で、心臓や胸の病気に良いとされました。



イチイとくわいとのつながり
イチイは成長が遅いため、年輪が詰まり、針葉樹としては硬いです。乾燥や加工が容易で、木肌は緻密で艶と光沢があるため良材とされ、工芸品や器具、彫刻、建築装飾材として利用されます。
また、樹形は端正で整いやすいため、庭木や生垣、盆栽としても親しまれています。北海道では枝葉を、神社で神前に供える玉串として用います。